



日本航空高等学校北海道校

女子バスケットボール部

# インターハイ 全国高校総体

# 準優勝

インターハイ  
北海道予選 優勝  
全国大会 準優勝

2025

インターハイ  
北海道予選 優勝  
全国大会 二回戦敗退

2024

インターハイ  
北海道予選 準優勝  
全国大会 ベスト16

2023

この冬、最大の目標である  
ウィンターカップ制覇へ

ウィンターカップ  
北海道予選 優勝  
全国大会 一回戦敗退

ウィンターカップ  
北海道予選 準優勝  
全国大会 一回戦敗退

## 大躍進の軌跡

創部3年 挑戦の歴史

北海道勢として15年ぶりの決勝進出——その舞台に、創部わずか3年目のチームが立った。日本航空高等学校北海道校女子バスケットボール部がこの夏のインターハイで示した躍動は、まさに快挙と呼ぶにふさわしい。

2023年4月、日本一——という目標を掲げ始動。全員1年生でスタートしたチームは、2か月後のインターハイ北海道予選でいきなり準優勝をつかみ取り、鮮やかなデビューを飾った。そこから積み重ねてきた2年間の努力は、3年間無敗の絶対女王・京都精華学園や昨年準優勝の岐阜女子などの強豪を打ち破り、決勝の大舞台へとつながった。最後は歴代最多優勝数を誇る桜花学園に一步及ばなかったが、創部3年目にしてインターハイ準優勝という快挙を成し遂げた。

「守備から走る」「楽しむ」——彼女たちが貫いてきたバスケットは見るものの心を揺さぶり、全国に「航空旋風」を巻き起こした。

目指すはウィンターカップ制覇。ここからが本当のクライマックスだ。

北海道勢として15年ぶりの決勝進出となったインターハイ2025  
創部3年目での快挙達成、そして目指すはただ一つ

# 激闘の記録

STARTING 5



2回戦 航空学園姉妹校対決 鬼門の初戦突破



大会初戦特有の固さはみられたものの、第2Q(クォーター)からディフェンスで真価を発揮。徐々にらしさを取り戻すと、第3Qには22-9と圧倒し、初戦突破。

3回戦 年代別日本代表を擁する石川県の強豪との一戦



要注意選手に後手になる場面はあるものの、すぐに対応・修正し、第2Qからはリードを広げ続け、危なげなく勝利。

3年連続夏冬連覇中の絶対女王「京都精華学園」撃破!!



VS. 京都精華学園 58-55 ○

7月6日の組み合わせ発表時から、絶対女王である京都精華学園を徹底的に対策。それでも第3Q終了時には14点差とリードを広げられる。しかし、第4Qは相手の得点を6点におさえ、攻撃面では23得点を記録。司令塔の中村やエース庵原がけん引し、残り1分で逆転。その勢いのまま見事な大逆転勝利を収めた。



VS. 岐阜女子 68-60 ○

前半は一進一退のクロスゲーム。第3Qには庵原とカマラを中心にインサイドを攻略し、第4Qには内外をバランスよく攻め競り勝った。

優勝回数歴代最多の愛知の伝統チームとの決勝戦

全国大会71度の優勝を誇る愛知の強豪「桜花学園」との決勝戦。相手に簡単なシュートを許し、第2Q終了時には16点差をつけられる。後半はディフェンスを徹底し、猛攻。4点差まで詰め寄るも、あと一歩及ばず準優勝となった。



VS. 桜花学園 59-63 ●

## 頂点まであと一歩 ファイナリストの想い



キャプテン 西川 葵

あまり準優勝したという実感はありません。嬉しい気持ちもありますが、時間が経つにつれて悔しさが大きくなります。創部3年目ということで後輩も増えてきました。前まではチーム全員で行っていた遠征に今は選抜メンバーしか行けないなど、なかなか全員が同じ意識でいることが難しく苦勞することもありました。キャプテンとして、とにかく「コミュニケーション」をとることを常に心掛けた結果、このような成績を取ることができて良かったんです。今大会は前半リードされるような展開も多かったのですが、そんなときこそポジティブに、笑顔でバスケットを楽しむことを大切にしてきました。それが後半の追い上げなどにつながったと思います。

### 応援の力が私たちが強くする

インターハイでは全国トップレベルのチームと戦い、フィジカル面やディフェンス面での課題が見つかりました。それと同時に、全国屈指の強豪校とも互角以上に渡り合えたことは、大きな自信になりました。全国大会では北海道での試合と比べ、研究されていない分、やりやすい場面もありました。これからは研究される立場になるので、柔軟に対応できるように練習を重ねていきたいです。私たちが常にチャレンジャーだと考えています。プレッシャーはあまり感じず、後悔の無いよう思いきりプレーすることを心掛けました。今大会でもその姿勢を出し切り、結果も残せて良かったです。また、個人としてもチームとしてもシュートが入らない時間がありました。消極的にならず打ち続けることを意識していました。その結果、徐々にシュートが入り始め、試合終盤の追い上げなどにつながったと思います。これまでずっと支えてくださった保護者や学校関係者、地域の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。今回は応援団も頑張っていた。声援が大きくなりました。本当に心強かったです。

### 劣勢こそ、笑顔で楽しむ

最後に、いつも応援してくださる保護者の皆さんや先生方、そして千歳市の方々に感謝しています。勝利という形で恩返しをし、私たちの「楽しいバスケット」を届けたいと思います。



絶対的エース 庵原 有紗

### 選手たちに「ありがとう」と伝えたい

私は創部当初から「日本一を目指す」と言い続けてきました。そうでなければ誰もついてきてくれないですし、最初から一度もぶれることはありませんでした。選手たちがどう思うかは別問題でしたが、自然と選手たちも「日本一をとる」と言ってくれていました。最大の目標はウィンターカップで優勝することです。そのためにはインターハイでベスト4に入る必要があると、選手たちには伝えていました。組み合わせ発表になりました。ベスト8で4連覇を狙う「京都精華」と対戦することがわかりました。厳しい戦いですが、むしろベスト8で絶対王者と対戦できることはチャンスだと、選手たちと共有しました。試合自体は、本当に選手一人一人が役割を全うし、持っている力を出し切り、勝利につながりました。全員が MVP でした。創部から今まで、選手たちには「ありがとう」の言葉しかありません。我々スタッフを信じてコートで戦ってくれて、練習にも真摯に向き合い、限界まで頑張ってくれています。その積み重ねが今回の準優勝という結果につながりました。これからは研究され、追われる立場になるので、我々も進化し続けなければなりません。そして、今私がここにいられるのは、理事長をはじめ学園の皆さんや、千歳市の方々のおかげです。この環境とサポートをいただいていることに心から感謝しています。



監督 矢倉 直親

創部3年目にして全国準優勝を成し遂げた彼女たち。その挑戦はまだ終わりません。

次なる舞台はウィンターカップ。再び日本一を懸けた戦いに挑みます。

公式 Instagram をチェックしながら 私たちも一緒に声援を届けましょう。



8月20日 インターハイ準優勝の報告に市役所を訪れました